

- 前回学んだ 2 階斉次線形微分方程式に、外力が加わった問題を考える。解くべき微

分方程式は $\frac{d^2x}{dt^2} + a_1 \frac{dx}{dt} + a_0x = F(t)$.

- 定数係数**非斉次**線形微分方程式の解法：

Step1: 「対応する斉次形微分方程式」を解く。解き方は省略。

Step2: 重根がなければ、 n 個の基本解 $y_1 = e^{\lambda_1x}$, $y_2 = e^{\lambda_2x}$, ... $y_n = e^{\lambda_nx}$ を得る。

Step3: 微分方程式の特殊解を一つ見つける。

右辺がべき関数：べき関数を試す。例： $Ax^2 + Bx + C$

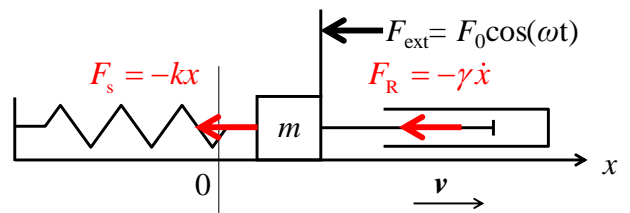
右辺が三角関数： $A\cos(\omega t) + B\sin(\omega t)$ を試す。

右辺が指数関数： Ae^{kt}

Step4: 対応する斉次形の一般解($C_1e^{\lambda_1x} + C_2e^{\lambda_2x} + \dots$)と、一つの特解を足したものが微分方程式の一般解。

- ばねとおもりの強制振動：
運動方程式は

$$\frac{d^2x}{dt^2} + 2\kappa \frac{dx}{dt} + \omega_0^2 x = F_0 \cos(\omega t) \quad (1)$$



対応する斉次形の一般解は $x = C_1 e^{\lambda_1 t} + C_2 e^{\lambda_2 t}$ (C_1, C_2 は定数) だが、ほとんどの場合これはどうでもよい。

非斉次形の特解は未定係数法を使って

$$x(t) = \frac{F_0/m}{4\kappa^2\omega^2 + (\omega_0^2 - \omega^2)^2} \{(\omega_0^2 - \omega^2) \cos(\omega t) + 2\kappa\omega \sin(\omega t)\} \quad (2)$$

これが強制振動の**定常解**。三角関数の公式を使い、

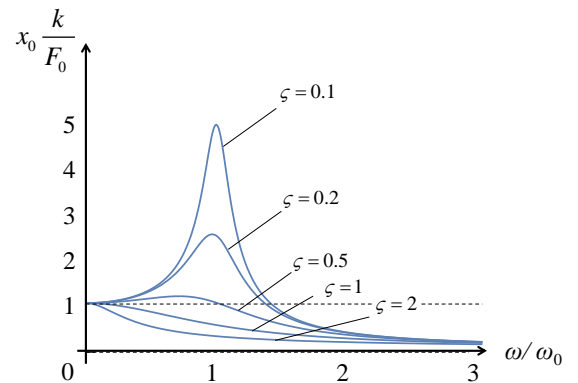
$$x(t) = \frac{F_0/m}{\sqrt{4\kappa^2\omega^2 + (\omega_0^2 - \omega^2)^2}} \cos\left(\omega t - \tan^{-1} \frac{2\kappa\omega}{\omega_0^2 - \omega^2}\right) \quad (3)$$

と書き直す。

- 強制振動の振幅： $\zeta = \frac{\kappa}{\omega_0}$ を**減衰比**と定義。 $\zeta \ll 1$ の

領域で、 $\omega = \omega_0$ になると、急に振幅が大きくなる。これを**共振現象**と呼び、日常的にもよく見られる。

- 振動の位相： $\omega \ll \omega_0$ のとき強制力が振動と同じ位相で、振動は強制力に従っている。一方、 $\omega \gg \omega_0$ のときは、振動は強制力とほぼ逆の位相で振動している。共振状態のときの位相差が $\pi/2$ で、このとき、外力からおもりに最も効率よくエネルギーが流れる。



- カテナリー：両端を固定したしなやかで均一なひもが、重力の下で取る形。

$$y = \frac{1}{a} \cosh\left(ax - \frac{ad}{2}\right) - \frac{1}{a} \cosh\left(\frac{ad}{2}\right) \quad (4)$$

2 次曲線ではなく、 \cosh (ハイパーボリックコサイン)であることを覚えておく程度で良い。

- 石積みのアーチはカテナリーを裏返したもの。圧縮以外の力が働かないため頑丈。